

サキグロタマツメタの産卵特性

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業—その他—漁場環境、アサリ

2 担当者

富山 毅

3 要旨

松川浦ではアサリを捕食する巻貝サキグロタマツメタの生息が確認されており、産卵期には漁業者による卵塊の駆除が行われている。近縁種のツメタガイは多回産卵を行うことが知られているが、サキグロタマツメタについては知見がないため、飼育試験を行った。

- (1) 砂を3cm程度入れた小型プラスチック水槽に、松川浦の海水をかけ流しにして、サキグロタマツメタを雌雄1組ずつ収容し、1試験区とした。餌としてアサリを適宜与え、9月～12月に飼育した。
- (2) 飼育下での卵塊は10月上旬に13試験区のうち12試験区で確認された。1つの試験区で最大で2つの卵塊形成が確認されたが、ほぼ連続して産出していたことから、サキグロタマツメタは一回産卵型で少なくとも1～2個の卵塊を産出すると考えられた。
- (3) 12試験区で合計15個の卵塊を産出した。このうち1つを除いて全て産出からおよそ1カ月の後に稚貝がふ出した。



図1 飼育実験および産出された卵塊

4 主な参考文献・資料

- (1) 佐藤利幸 (2008) 福島県松川浦におけるサキグロタマツメタ移入の経緯と現状. 日本生態学会東北地区会報 68, 41-43.
- (2) 富山毅 (2010) 飼育下でのサキグロタマツメタのアサリ捕食および産卵. 平成22年度日本水産学会春季大会.